

☆6世紀末~7世紀前半の推古朝を中心とする、日本初の仏教文化

1. 建築 [図表P.51②]

☆各豪族は競って一族のための寺院を建立するようになった。このような寺を1 \_\_\_\_\_ という。

①聖徳太子——奈良の2 \_\_\_\_\_ 寺(斑鳩寺)、大阪の3 \_\_\_\_\_ 寺

②蘇我氏——4 \_\_\_\_\_ 寺(または法興寺、のち平城京に移り「元興寺」)

③秦氏——5 \_\_\_\_\_ 寺

※飛鳥時代当時のまま残っている建築物はなく、飛鳥時代の面影を一部に残すにとどめている。

Q1. 重厚な寺院建築物を支えるために渡来した新たな建築技法とは?

A1. 図表 P.52の写真を見てもわかるように、寺院の建造物は瓦葺きのためかなりの重量になる。従来

の大型構造物は、地面に穴を掘ってそこに柱を埋め込む6 \_\_\_\_\_ 建築が行われていたが、寺院ではその重量のため柱が沈んでしまっ不安定になる。そこで土台として大きな石を置き、その上に柱を乗せる7 \_\_\_\_\_ 建築の技法が採用された。[図表P.52]

【伽藍配置】[図表P.52①]

飛鳥寺、四天王寺、法隆寺などの飛鳥時代前後の寺では仏舎利(釈迦の骨)をおさめる8 \_\_\_\_\_ が伽藍の中心にあるのに対して、奈良時代の東大寺や大安寺では仏像をまつる9 \_\_\_\_\_ が中心の位置を占めるようになってきている。

◎再建かそうでないか論争のあった法隆寺では、再建前のものとおもわれる古い伽藍が発掘され、再建説が有力となった。

Q2. その発掘された古い伽藍跡を何というか。 [図表P.52②] A2. \_\_\_\_\_

Q3. その伽藍配置はどこの寺と同じものであったか? A3. \_\_\_\_\_

2. 彫刻

①10 \_\_\_\_\_ 様式~力強く端厳、男性的。杏仁形の眼、仰月形の唇。[図表P.54]

\*11 \_\_\_\_\_ 寺金堂釈迦三尊像 \_\_\_\_\_ とともに13 \_\_\_\_\_ (止利仏師)作と伝

\*12 \_\_\_\_\_ 寺釈迦如来像 \_\_\_\_\_ えられる飛鳥文化を代表する金銅像。

\*法隆寺夢殿救世観音像...明治時代に岡倉天心とアメリカ人フェノロサが発見。木像。厩戸王(聖徳太子)の等身像と伝えられている。

まず教科書P36 p.14~P37.25 E中, C1. ていねいに読みましょう。注①②③も読んで意味をつかみましょう。

↓  
図表P.51②も参照しながら2~5の空欄を埋めましょう。(1については『日本史用語集』P26を確かめると、おどろくづくわかると思っています。)

教科書ですでにわかるところもいれませんか  
図表P52右下のテーマ「礎石建築技術の伝来」を読んで 瓦葺と礎石は一体であることと確かめましょう。

図表P52①は左にあるものが仏教伝来時の伽藍配置で右に行くと年代が新しくなります。8.9の位置の変化から日本においては仏教の何に心ひかれたのか想像してほしい。

聖徳太子が関係した二つの寺は最初は同じ伽藍配置だったということになりますね。